

発足した矢崎エリコン

欧州四力国にサブ代理店設置



既報スイスのエリコン・ピュ

ール社と合弁による販売会社「矢崎エリコン・コーポレーション」(YOC)が、4月19日正式に設立した。

資本金は30万スイスフラン(二、四六〇万円)で矢崎側60%、エリコン側40%。



マサコ夫人

このYOCの社長には矢崎貞美総業社長、副社長にはロルフ・エグリー氏(エリコン系タゴラスAG社長)のほか、取締役には矢崎側からクルト及びマサコ・ユ

ーベルシュラーゲ夫妻、エリコン側からハインリッヒ・ブリックレー氏(エリコン・ピュールの社長室長)がそれぞれ就任した。

「矢崎エリコン」は矢崎総業から満10カ年の欧州全域販売代理店権を与えられており、当面は矢崎の自動車用計器、自動車用電線、ビニルテープなどを主体に、カーメーカ納入とアフター・マーケット(スペア及びアクセサリ用)販売を行う。

同時に欧州各国にサブ代理店を設ける方針で、すでに英国のタイム・インスツルメンツ社(本社・ロンドン)、仏のホロデイス社(パリ)、西独のゲーモー社(ジュッセルドルフ)、デンマークのシュレーダー社(コペンハーゲン)の四社と契約が行なわれることになっている。そのほか、イタリア、ベネルックス三國

(ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ)、スペインなどにも逐次サブ代理店を設けて拡大していく予定。日本の自動車部

品メーカの欧州拠点設置はこれが初めてといわれるが、資本自由化の中で、攻めるは最上の守りを実行する矢崎エリコンの今後の発展が注目される。68年は売上目標として当面百ドル以上が期待される。なお同社はスイスのチューリッヒ市ゲンフェルド・シュトラッセ十一番地に新事務所を構えた。

マサコ・ユーベルシュラーゲ取締役(写真上)の話 欧州にもついに矢崎グループの新しい会社が生じた。世界のどこへ行ってもヤザキのマークが見られることはうれしいと同時に、またそうなるべく毎日努力したい。欧州に対する体制が確立したのちは、アフリカおよびコモコン(東欧共産圏)へ販路を伸ばしたい。